

「クマが冬眠している間に考えること」
～飯館村にはクマがいるという前提で～

特別編

今のうちに考えておくこと

村内では、まだクマが住宅地に出没してはいませんし、畠や果樹が荒らされているという情報もありません。クマがいるとしても、まだ人里にエサがあることに気づいていないかもしれません。でも、来年になって、クマが「畠に行けばおいしいものがたくさんある」と気づいてしまうと、どうなるのでしょうか。農業への被害だけでなく、人身被害が起きてしまうかもしれません。今のうちに、私たちにできることを考えましょう。

今までのいろいろな広報記事(本紙の「イノサル通信」や「鳥獣対策だより」など)でも何度か説明させてもらいましたが、銃やわなを使わない一般の人にできる対策は、

①環境整備

②防除

の2つです。これは、本当に基本のことなので、対象となる動物の種類が変わっても同じです。

環境整備は、動物が隠れ場所として好むヤブの草刈りをしたり、収穫せずに放置されたカキやクリなどの果樹をなくしたり、いらない野菜を畠に放置しないことです。防除は、電気柵やワイヤーメッシュ柵などの防除柵で農地を囲って、正しく機能するように維持管理することです。飯館村では、防除柵が設置されている光景をよく見ますし、対策の手法が普及されていると思います。それでも、環境整備と防除が正しくできているのか、もう一度見直してみませんか。

クマはもともと東北地方には広く生息している動物ですし、山奥にいるだけなら大きな被害は出ません。今は、春以降にクマの被害が出来てしまわないように、できることを考えましょう!

正しく知って、冷静に警戒してください!
この機会に、獣害対策を見直しましょう!



イノサル通信は村
の鳥獣対策を支援
する京黒さんから
のお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員
きょうくろ あつし
京黒 篤志さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務め
ています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

ツキノワグマの目撃情報が確認できます

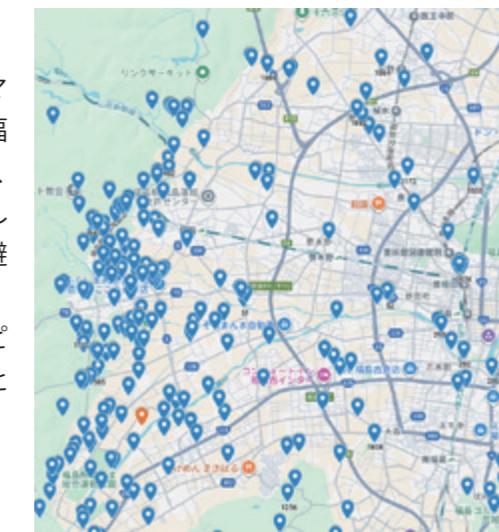
福島県内では例年、ツキノワグマの出没が多数発生しており、県が、福島県警から提供された情報を基に、ホームページ上で目撃情報を公表しています。ツキノワグマとの遭遇を避けるために、有効にご活用ください。

地図上にピンが表示されており、ピンをタップもしくはクリックすることで、詳細情報が表示されます。



福島県ホームページ

福島県ツキノワグマ目撃情報



結局、クマはいるのか

広報いいたて令和7年7月号で、村内で目撃されたクマの情報のうち、本当にクマである可能性が非常に高い事例を紹介しました。また、クマに遭遇した時にどうすればよいのか、人身被害を防ぐ方法も紹介しました。7月号がお手元にある方は、ぜひもう一度読み返してください。

その後にあったことを説明します。7月30日に、大倉地区のはやま湖西岸から2.5kmほど西側の道路上で、クマのような足跡があるという連絡を受け、7月31日に現場を確認しました。現場に残された足跡はクマと断定できるもので、幅11cmほど、成獣(オトナ)のサイズでした。8月6日に現場付近のクマが通りそうな場所に自動撮影のカメラを1台設置したところ、9月6日に1頭のクマが撮影されました。それ以降、カメラを5台に増やして10月22日まで調査を続けましたが、もうクマが撮影されることはありませんでした。今のところ、映像など確かな証拠のある出没情報は9月6日の撮影が最後です。

足跡の発見とカメラでの撮影を一つの事例としてまとめるなら、今年度だけで3回の確かな出没事例があったわけです。村内にクマがいないと考える方が不自然ですし、今後も出没する可能性があるとして対策を考えた方がよいと思います。

ただし、クマがいるとしても、12月から3月頃までは、普通ならクマが冬眠する時期です。クマが冬眠するのは、冬にエサが少ないので(メスは出産のために冬眠します)。「冬眠しないクマもいる」といううわさ話もよく聞きますが、冬に出歩いて体力を消耗する面倒臭さを上回るほどのことがないければ、基本的には冬眠しているはずです。



現場付近で撮影されたクマ
(9月6日 自動撮影カメラ)



足跡が残っていた現場(7月31日 大倉)



現場の足跡(後足)



現場の足跡(前足)